

目 次

〈 繊維情報 〉

・2005年3月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1		
・2005年2月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	7		
・世界	米国、欧州の対中繊維セーフガードについての現状(2).....	10	
・アジア	中国	2005年1～3月の繊維品貿易・輸出は20%増、輸入は17%減.....	14
		ポリウレタンに対する対日等アンチダンピング調査を開始.....	19
	韓国	木材梱包材の検疫要求事項を公表.....	20
	インドネシア	2004年1～12月の繊維品貿易・輸出は好調に推移、輸入は2桁の増加.....	21
・米州	米国	2005年2月の繊維品輸入、中国が2倍に急増.....	24
		2005年3月の大手小売店販売、悪天候で予想を下回る.....	27

〈 組合関係の会議と催事 〉

・(2005年4月)(2005年5月のスケジュール).....	32
---------------------------------	----

〈 お知らせ 〉

・輸出入組合合同の通常総会及び懇親会の案内(輸出入).....	34
・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	34
・「繊維の基礎知識」研修会の開催(輸出入).....	36
・「外国為替の基本」講習会の開催(輸出入).....	37
・6月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	38

〈 組合員情報 〉

・組合員情報.....	38
・〔海外取引照会・展示会案内〕.....	39



◎ 2005年3月の繊維品輸出概況

I. 繊維品全体の輸出

—前年同月比7%増の7億2,907万ドルと再び増加に転じる—

前月は9ヶ月振りに減少に転じ先行きが危惧されたが、2005年3月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比7%増(前年同期比:2%増)の7億2,907万ドルと、再び増加に転じた。

なお、為替が2004年3月の108.62円から2005年3月は105.31円と約3%の円高となっていることもあり、円ベースでは4%増(同横ばい)の767億7,800万円となっている。

<主要地域別輸出>

3月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の76%を占める最大市場の東アジア向けは、前月は2桁減と不振に終わったが、3月は前年同月比6%増(同横ばい)の5億5,374万ドルと盛り返し、全体の輸出増加の地域的な最大の要因となっている。

東アジアの主要国向けでは、韓国、シンガポール、フィリピンは低調な推移となったが、最大市場の中国を始め、香港、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアは各々好調に推移した。

純輸出市場向けは、シェア4%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国は増加推移となったが、イランが激減し、全体として1%の微減(同横ばい)の2,808万ドルとなった。

欧米市場は、シェア9%のEUは、原料類(綿・糸)が健闘し、EU全体として17%増(同15%増)の6,985万ドル、また、シェア8%の米国は、織物類は不振に終わったが、綿類、不織布、コーテッド織物等が伸び、2%増(同5%増)の5,144万ドルとなった。

<主要商品別輸出>

3月の輸出を主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で8%減(同9%減)、金額で5%増(同4%増)と数量減の金額増となった。太宗の合繊綿は、数量で9%減(同10%減)ながら、単価アップにより金額で9%増(同64%増)となった。この内、主力のアクリル綿は、量的にはタイが健闘したが、最大輸出先の中国が微減、また、インドネシア、イランが落ち込み、全体としては、数量で8%減(同12%減)となった。但し、金額では単価のアップにより8%増(同5%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、EUは横ばいに止まったが、中国、タイ、米国が不振で、数量で18%減(同12%減)、金額で7%減(同横ばい)となった。その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力のEU向けが後退し、数量で6%減(同16%増)、金額で5%減(同19%増)となった。

スフ綿は主力の中国が減少し、数量で7%減(同5%減)、金額で5%減(同3%減)と数量、金額ともに低調な推移となった。

織維品輸出実績(2005年3月)

単位	2005年3月						2005年1月～3月						2004年実績					
	数量	金額		前年同期比		数量	金額		前年同期比		数量	金額		数量	金額			
		千ドル	百万円	数量	ドル		千ドル	百万円	数量	ドル		千ドル	百万円		千ドル			
織維品総合計	42,938	76,778	729,065	107	106	106,338	25,882	1,915,250	100	102	427,993	900,766	8,330,992	427,993	900,766	8,330,992		
原料(綿)合計	6,302	10,441	99,142	92	95	16,047	52,845	91	101	66,597	99,966	923,956	66,597	99,966	923,956			
スフ綿	33,169	7,988	75,850	91	109	81,046	186,344	90	103	321,629	73,095	215,237	321,629	73,095	215,237			
合織綿	4,451	730	6,930	82	93	11,770	18,572	88	98	51,865	8,007	675,403	51,865	8,007	675,403			
(ポリエステル)	25,842	5,865	55,695	92	108	61,327	132,496	88	102	243,538	52,514	74,063	243,538	52,514	74,063			
(アクリル)	12,634	8,654	82,172	110	111	33,394	23,080	106	108	135,543	94,082	485,070	135,543	94,082	485,070			
糸 合計	1,289	805	7,641	162	133	3,324	2,207	129	112	11,482	7,864	870,337	11,482	7,864	870,337			
人絹糸	22	36	338	110	77	83	112	100	70	72	591	72,916	72	591	72,916			
スフ糸	10,322	6,972	66,208	106	109	27,318	18,504	106	109	110,548	73,641	681,155	110,548	73,641	681,155			
合織長糸	2,335	1,390	13,199	97	95	6,946	4,340	118	118	27,504	17,566	162,369	27,504	17,566	162,369			
(ナイロン)	3,913	1,768	16,787	105	127	9,908	4,454	97	113	40,805	16,719	154,685	40,805	16,719	154,685			
(ポリエステル)	491	281	2,668	128	97	1,046	710	65	75	5,733	4,164	38,476	5,733	4,164	38,476			
合織短糸	388	340	3,233	106	115	1,238	967	107	109	4,854	3,756	34,881	4,854	3,756	34,881			
綿 糸	105,626	30,633	290,886	99	104	275,587	80,799	95	94	1,295,836	384,270	3,557,638	1,295,836	384,270	3,557,638			
織物合計	708	1,305	12,394	101	100	1,699	3,147	95	93	7,280	13,304	123,079	7,280	13,304	123,079			
絹織物	7,397	2,371	22,515	98	90	17,036	5,663	93	85	77,844	26,662	246,677	77,844	26,662	246,677			
人絹織物	1,220	416	3,953	92	74	3,177	1,332	73	71	16,372	6,923	64,317	16,372	6,923	64,317			
スフ織物	44,743	9,504	90,250	91	96	116,893	24,814	92	90	611,549	129,896	1,201,387	611,549	129,896	1,201,387			
合織長織物	5,696	955	9,066	144	119	12,548	2,259	124	105	55,195	11,163	103,187	55,195	11,163	103,187			
(ナイロン)	33,887	6,964	66,125	84	93	89,577	17,894	88	88	493,931	98,356	909,292	493,931	98,356	909,292			
(ポリエステル)	15,138	3,384	32,135	109	113	41,533	9,336	102	100	166,635	39,208	363,303	166,635	39,208	363,303			
合織短織物	32,943	11,323	107,517	104	110	84,976	29,501	97	98	354,304	123,887	1,149,181	354,304	123,887	1,149,181			
綿織物	2,777	1,740	16,520	118	123	8,422	5,453	103	99	58,795	42,026	387,539	58,795	42,026	387,539			
毛織物	48,882	4,675	44,397	106	111	138,267	12,318	113	110	574,520	51,660	477,610	574,520	51,660	477,610			
不織布	1,659	262	2,487	123	145	4,069	642	124	140	15,129	2,190	20,254	15,129	2,190	20,254			
タイヤコード織物	1,704	3,799	36,072	123	126	3,862	8,666	112	109	17,238	41,001	378,474	17,238	41,001	378,474			
コーティング織物		5,054	47,992	109			13,355		102		61,999	573,419		61,999	573,419			
ニット生地		3,627	34,444	92			10,608		92		53,076	489,518		53,076	489,518			
アハレル		9,633	91,471	110			24,869		104		112,522	1,039,786		112,522	1,039,786			
その他																		

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。
 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。
 3. アハレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

糸類の輸出は、数量で10%増（同6%増）、金額で11%増（同11%増）と数量、金額共に2桁の増加となった。

主力の合織（長）糸は数量で6%増（同6%増）、金額で9%増（同12%増）となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国を中心とする東アジア、米国が順調に推移し、数量で5%増（同3%減）、金額で27%増（同16%増）となった。一方、ナイロン糸は、タイは大幅増となったが、中国、台湾、フィリピン、米国が振るわず、数量で3%減（同18%増）、金額で5%減（同22%増）となった。その他の合織（長）糸では、ポリウレタン糸は中国は増加したが、香港を中心とするその他東アジアが低調に推移し、数量で5%減（同4%減）、金額で10%減（同9%減）となった。

また、人絹糸は、主力の韓国、中国向けが大幅に増加し、数量で62%増（同29%増）、金額で33%増（同15%増）と好調に推移した。

太宗の織物類の輸出は、数量で1%減（同5%減）、金額で4%増（同3%減）と数量微減の金額増となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で16%減（同12%減）、金額で7%減（同9%減）と依然低調な推移が続いている。

地域的には、全体の67%を占める東アジア向けは、台湾、ベトナム、マレーシア、インドネシアは好調に推移したが、最大市場の中国を始め、香港、韓国、タイ、フィリピンが減少し、東アジア全体として12%減（同7%減）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、最大市場のアラブ首長国が大幅に減少し、サウジアラビアも不振で、西アジア全体として26%減（同17%減）となった。

欧米市場向けも引き続き低調で、EU向けは、主要国は軒並み振るわず、全体として16%減（同12%減）、一方、米国も31%減（同34%減）と大きく減少した。

ナイロン織物は、数量で44%増（同24%増）、金額で19%増（同7%増）と好調な推移となった。市場的には、シェア79%の東アジア向けは主力の中国、香港が大幅に増加し47%増（同35%増）となった。一方シェア10%の米国も38%増（同2%減）と大きく回復した。

綿織物は、数量で4%増（同3%減）、金額で10%増（同横ばい）と数量、金額共に増勢推移となった。市場的には、82%のシェアを占める最大市場の東アジア向けは、中心市場の中国が横ばい、香港が微減となったものの、韓国、ベトナム、台湾、タイ、マレーシアが好調に推移し、東アジア全体としては5%増（同5%減）と堅調な推移となった。その他の市場では、シェア10%の米国が10%減（同5%減）と減少したが、シェア4%の西アジアは25%増（同59%増）、シェア2%のEUは42%増（同40%増）と揃って好調に推移した。

ポリエステル短繊維織物は、数量で9%増（同4%減）、金額で11%増（同1%増）と綿織物同様、数量、金額共に好調な推移となった。市場的には、全体の64%を占める東アジア向けは、最大市場の中国は若干の減少となったが、香港、ベトナムが大幅に増加し、東アジア全体としては1%増（同3%減）の微増となった。一方、シェア34%の民族衣装用の西アジアは、最大市場のアラブ首長国、サウジアラビア、クエートが揃って増勢で推移し、西アジア全体として26%増（同19%増）と大幅な増加を記録した。

人絹織物は、数量で2%減（同7%減）、金額で10%減（同12%減）と数量、金額共に低調な推移となった。市場的には、シェア70%の東アジアは、中心市場の中国の後退を、香港、タイの増加でカバーし、東アジア全体として横ばい（同7%減）となった。一方シェア13%の西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビアが揃って好調に推移したが、イラン、アフガニスタンが激減し、全体として5%減（同横ばい）となった。

毛織物は、数量で18%増（同3%増）、金額で23%増（同2%増）と数量、金額共に大きな伸びを記録した。地域的には、東アジアが97%とほぼ全量を占めている。中でも78%と圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国が2桁増、また、ベトナム、香港も大幅な増加を記録し、東アジア全体として23%増（同3%増）となった。

不織布の輸出は、数量で6%増（同13%増）、金額で11%増（同12%増）と数量、金額共に好調に推移した。全体の66%を占める東アジアは、大手の韓国、中国が不振で、香港、台湾は健闘したが、全体として5%減（同横ばい）となった。一方、欧米市場は揃って好調で、シェア22%の米国向けは38%増（同47%増）、シェア7%のEUは24%増（同52%増）と共に大幅な増加となった。

コーテッド織物の輸出は、数量で23%増（同12%増）、金額で26%増（同12%増）と数量、金額共に大幅な増加となった。全体の80%を占める東アジアは、最大市場の中国、香港が大幅に増加し、全体として32%増（同8%増）となった。一方、欧米市場は、シェア9%の米国は97%増（同64%増）と前月に続き大きく増加したが、シェア5%のEUは18%減（同5%増）と不振に終わった。

ニット生地の輸出は、数量で8%増（同3%増）、金額で9%増（同4%増）と数量、金額共に増勢推移となった。全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国別では、最大市場の中国、香港、台湾、タイが増加推移、一方韓国、ベトナム、インドネシアは減少推移となった。一方、欧米市場は前月に続き何れも大幅な増加基調で好調に推移した。

アパレルの輸出は、金額で8%減（同5%減）と減少推移となった。

内容的には、布帛製衣類は、外衣類は、中国は低調推移となったが、台湾、香港、米国、EUが健闘し、金額で19%増（同25%増）となった。逆に、下着類は、主要国の台湾、香港、中国等が大幅に減少し、金額で33%減（同16%減）となった。

一方、ニット製衣類は、台湾は健闘しているが、ニット製衣類輸出の主力であった香港向けニットパネル（最終編み立て後米国向け）の輸出が2005年からの米国の枠の撤廃による輸出撤退等により不振が顕在化し、外衣類は金額で34%減（同22%減）、下着類も9%減（同21%減）と各々後退した。

II. 原料(綿・糸)の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、主力のアクリル綿をはじめ、ポリエステル綿、ビニロン綿、スフ綿等主要品目がいずれも減少推移となり、全体では8%減の42,938トン、金額については5%増の9,914万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は、主力品目の合繊長繊維糸をはじめ、合繊短繊維糸、人絹糸、綿糸がいずれも増加推移となり、全体では10%増の12,634トン、金額についても11%増の8,217万ドルとなった。

2005年3月の原料(綿・糸)の輸出輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2005年3月				2005年1～3月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	6,302	93	20,891	331	16,047	95	52,845	329
合繊綿	33,169	91	75,850	229	81,046	90	186,344	230
ポリエステル	4,451	82	6,930	156	11,770	88	18,572	158
アクリル	25,842	92	55,695	216	61,327	88	132,496	216
他合繊綿	2,876	106	13,225	460	7,949	112	35,276	444
人絹糸	1,289	162	7,641	593	3,324	129	21,123	635
合繊長糸	10,322	106	66,208	641	27,318	106	177,069	648
ナイロン	2,335	97	13,199	565	6,946	118	41,581	599
ポリエステル	3,913	105	16,787	429	9,908	97	42,599	430
他合長糸	4,074	111	36,220	889	10,464	108	92,890	888
綿糸	388	106	3,233	834	1,238	107	9,254	748

出所：財務省統計

III. 織・編物(絹・化合繊・綿・毛)の輸出

2005年3月の織物(絹・化合繊・綿・毛)の輸出は、ポリエステル長繊維織物の不振が続いているが、綿織物、合繊短繊維織物、毛織物が好調な推移となり、織物トータルで、数量で1%減(前年同期比5%減)、金額で4%増(同3%減)と数量微減の金額増となった。

市場的には、主力の東アジアは、織物トータルで、台湾、香港、ベトナム、インドネシア、タイ、マレーシアは数量、金額ともに前年同月を上回り好調に推移した。一方、中国、シンガ

ポールは数量減の金額増、韓国、フィリピンは数量、金額共に前年同月を下回った。

また、純輸出市場では、西アジアは、ポリエステル長繊維織物の不振をポリエステル短繊維織物の好調でカバーし、サウジアラビアは数量、金額共に上回ったが、アラブ首長国は数量減の金額増となった。一方、欧米市場も、ポリエステル長繊維織物の不振が続いており、米国、EUは揃って、数量、金額共に減少推移となった。

2005年3月の織・編物(絹・化合織・綿・毛)の輸出状況

単位：1,000SM、1,000\$、前年比は数量比%

	2005年3月			2005年1-3月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	708	12,394	101	1,699	30,079	95
人絹織物	7,397	22,515	98	17,036	54,146	93
スフ織物	1,220	3,953	92	3,177	12,758	73
合織(長)織物	44,753	90,250	91	116,893	237,326	92
ポリ(長)織物	33,887	66,125	84	89,577	171,142	88
ナイロン織物	5,696	9,066	144	12,548	21,588	124
合織(短)織物	15,138	32,135	109	41,533	89,310	102
ポリ(短)織物	13,963	29,585	109	37,901	82,325	104
綿織物	32,943	107,517	104	84,976	282,175	97
毛織物	2,777	16,520	118	8,422	52,246	103
コーテッド織物	1,704	36,072	123	3,862	82,790	112
ニット生地	15,368	47,992	108	38,983	127,758	103

(注) 1. ポリエステル(長)、ナイロン(長)織物は、ポリエステル、

ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2005年3月の輸出は、金額(ドル)ベース(以下同じ)で、アパレルは布帛製外衣が前年を上回った他は、布帛製下着、メリヤス製外衣・下着いずれの品目も減少推移となり、全体では前年同月比8%減となった。

その他については、敷物が微減推移、細幅織物・紐類、漁網・その他の網・網地は増加推移

となった。

2005年3月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2005年3月		2005年1～3月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	17,192	99	56,894	107
外 衣	9,357	119	34,205	125
下 着	3,735	67	11,842	84
スカーフ・マフラー	742	136	1,740	112
ニット製衣類・付属品	17,251	85	44,693	83
外 衣	4,231	66	12,684	78
下 着	10,536	91	24,391	79
敷 物	2,639	99	7,112	106
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	4,040	151	9,069	117
細 幅 織 物 ・ 紐 類	15,290	108	42,882	108

◎ 2005年2月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

2月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比113.3%（前月比は82.9%）、ドルベースで同115.1%（前月比は81.6%）、数量(重量)で同111.7%（前月比は77.9%）と、円・ドル金額が4ヶ月続けて増加、数量は3ヶ月ぶりに減少した前月から増加に転じた。前月比は、金額、数量ともに減少した。

糸類は、数量(重量)で前年同期比3.1%減と減少幅は改善したものの3ヶ月続けて減少、内訳はその他の糸が増加、絹糸、毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸が減少となった。織物類は同11.2%増と2ヶ月連続で増加、絹織物、毛織物、綿織物、人織(長)織物、人織(短)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加、黄麻織物は減少した。衣類は同15.9%増と3ヶ月ぶりに増加した。衣類を除いたインテリア用品等の二次製品は同15.1%増と4ヶ月続けて増加した。

前月はドル金額が3.7%増加、円金額が0.5%のほぼ横這い、数量が1.7%の減少となったが、今月は円・ドル金額、数量ともに2桁の増加となった。数量の内訳を見ると、糸類が引き続き減少したものの、織物類、衣類、二次製品が10%を超える増加となり、繊維製品計でも大幅増となった。

2. うち糸類

➤ 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月の高水準の反動もあり前月比19.5%の減、前年同月

比も 2.4%の微減となった。全体の 86%を占める純綿糸の輸入を前月に比べると国別では首位のパキスタンが 23.7%の減、2位のインドネシアが 24.5%、3位のインドも 9.0%、中国 22.4%と主要国が軒並み減少となった。番手別では 20番手中心が 22.5%、30番手中心が 23.6%、40番手以上が 16.3%それぞれ減少となった。糸種別でもカード糸 23.9%、コマ糸も 15.9%下回った。また、混紡綿糸も 16.9%の減少となった。

- 毛糸の 2月の輸入実績は前年同月比数量ベース 7.2%減と、5ヶ月連続の減少となった。品種別に見ると、紡毛糸の輸入が同 34.3%減と前月同様に大幅減となったのに加えて、太宗を占める梳毛糸も同 5.2%減少した。国別では、前月同様にトップシェアの中国が同 11.3%減と引き続き減少、次ぐマレーシアは 35.3%の増加となった。この他ではタイ、ペルーが大きく減少した一方、台湾、インドからの輸入が大幅増となった。
- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 22.4%の大幅減となり、前年同月比も 3.8%減と 4ヵ月ぶりのマイナスとなった。主要商品を前月に比較すると主力商品の台湾等からのポリエステルは 15.3%、米国、中国等からのナイロン 46.5%、中国等からの人絹糸も 28.4%それぞれ減少となった。一方、人織(短)糸は依然輸入の縮小傾向が続いており、前月比では主力商品の T/C,T/R のポリエステル紡績糸がマイナス 9.4%減となったのをはじめ、スフ糸、アクリル紡績糸もマイナスとなり、全体では 27.7%の大幅減、前年同月比も 5.3%の減と 13ヵ月連続の減少となった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 25.8%の大幅減となり 12ヵ月ぶりの低水準輸入となったものの、前年同月比では昨年が 19年ぶりの低水準輸入であったこともあり 32.0%の大幅増となった。国別で前月に比べると全体の 4分の 3を占める中国が 26.1%減、2位のインドネシアも 30.4%の大幅減となったものの、3位のパキスタンは 2.8%の微増となった。品種別でも金巾が 4.3%増と唯一プラスとなったものの主力ポプリンの 24.4%をはじめ、粗・細布 44.5%、綾織 34.4%と各々大きく減少となった。
- 毛織物の輸入実績は、数量(面積)ベース前年同月比 50.5%増と、前月の 0.3%の微増から再び大幅増となり 18ヶ月連続で増加した。イタリア、イギリスを中心に EUからの輸入が同 54.1%増と前月同様大幅に増加したのに加え、前月久々に減少に転じた中国からの輸入が同 57.0%増と再び大幅増となった。品目別では、前月同様に紡毛織物が同 91.7%の大幅増加となり、主力の梳毛織物も同 47.4%の大幅増となった。
- 人織織物の輸入実績は、人織(長)織物が前月比 21.1%減となったものの、前年同月比は 19.1%と 4ヵ月連続の増加となった。国別で前月に比較すると中国 9.8%減、韓国 27.6%、台湾 36.7%、インドネシア、ベトナムを含む其の他も 21.0%と軒並み減少となった。品種別では、主力のポリエステルが 10.5%、ナイロン 18.4%、ポリプロピレン等其の他もそれ

ぞれ減少となった。一方、人織(短)織物も主力商品の T/C 織物が前月比減少、前年同月比増加となったこともあり、全体では前月比 25.3%減、前年同月比は 18.3%の増加となり 9 ヶ月連続プラスとなった。

4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比枚数で 21.3%増、布帛製衣類も同 16.5%増、身の廻り品も重量ベース 8.4%増、衣類計で重量ベース 15.9%増となり、ニット製衣類が 11 ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加、布帛製衣類も 3 ヶ月ぶりに増加、身の廻り品も 4 ヶ月続けて増加し、衣類計では 3 ヶ月ぶりに増加した。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が 26.2%増加し 12 ヶ月連続で増加、布帛製衣類も 18.5%増加し 3 ヶ月ぶりの増加、身の廻り品は重量ベース 15.1%増で 4 ヶ月連続の増加となった。今年 1 月から 2 月までの累計での衣類計（重量ベース）のシェアは 89.7%となった（金額ベースでのシェアは 78.3%）。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 27.1%減少、布帛製衣類も 2.0%減となり、ニット製衣類が 11 ヶ月連続の減少、布帛製衣類も 2 ヶ月連続で減少した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 16.5%減と 2 ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 12.3%減と 3 ヶ月連続で減少。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 3.3%減と 3 ヶ月ぶりに減少し、布帛製衣類は 21.3%増と 4 ヶ月連続の増加となった。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではコート、アンサンブル、ジャケット、ズボン、ドレス、アウターシャツ、セーター、スポーツウェア、下着類などが増加、スーツ、スカートが減少。布帛製衣類では紳士用はコート、スーツ、アンサンブル、ジャケット、ズボン、下着類など軒並み増加、婦人用ではジャケット、ズボン、ブラウス、下着類が増加、ドレスなどが減少した。

前月は金額が前年同期比プラスをキープしたものの数量は 1.7%減少したが、今月は金額、数量ともに 2 桁の大幅増となった。毎年 1 月及び 2 月は、中国での旧正月休暇の時期による影響が前年同月比に大きく出るので、今月の増加もそれがあると考えられる。中国では 2005 年 1 月から繊維品の一部品目に輸出税が課せられるようになったが、今月までの統計を見る限り、輸入量に大きな影響は見受けられない。しかし、中国側に対欧米輸出急増への対応策として新たな輸出規制への動きが見られることから、今後とも動向を注視したい。



◎ 米国、欧州の対中繊維セーフガードについての現状（２）

クォータフリー後の繊維品貿易に関する、米国、欧州、中国の対応等の現状については前月号で述べたが、その後の進展、新たな動きを取り纏めると次のとおり。

1. 米 国

○ 業界よりの、対中セーフガード申請を政府が受理、セーフガード手続きを開始

4月6日、米国繊維4団体は、1-3月の暫定輸入統計に基づき14カテゴリー(7品目)の対中セーフガード申請を米国繊維協定遂行委員会(CITA)に行っていたが(前月号参照)、CITAは、4月27日、これを正式に受理し、4月28日の官報公示によってパブリックコメントの公募を開始した。パブリックコメントの締め切りは6月3日で、その後2ヶ月以内に、政府は正式に中国に協議を申し入れるかどうかを最終決定することになる。

また、昨年10月から12月にかけて、業界より申請され、政府により受理され、パブリックコメントの公募が行われていた、「恐れ」に基づく12品目の対中繊維セーフガード要請については、昨年12月30日の国際通商裁判所の検討中止命令により、ペンディング状態になっていたが、本年4月27日、政府よりの控訴を受けていた米国巡回控訴裁判所が、当該中止命令の撤回決定を行った。これを受けてCITAは、5月5日付け官報により、これら12品目の検討を続けることを公告し、上述の調査と平行して、検討が続行されることとなった。12品目のうち、検討中止命令の時点でパブリックコメントの期間が過ぎていた7品目については、パブリックコメントの再募集は行われず、パブリックコメント期間中であった5品目については、再度締切日が設定された。(下記品目詳細参照)

これにより政府が、今年に入り対中セーフガード手続きを始めたか、再開した品目は、4月4日付け官報で公示された、政府の主導による3品目、上述の業界の現実の輸入統計に基づく7品目及び業界の「恐れ」に基づく12品目となった。但し、このうち9品目は申請品目が重複している。

各々の調査品目の内容は次の通り。

(1) 業界からの「輸入統計」に基づき要請された品目

<u>カテゴリー</u>	<u>商品明細</u>	<u>官報公示日</u>
* 340/640	紳士用綿・化合繊維製シャツ（布帛）	05. 4. 28
* 345/645/646	紳士・婦人用綿・化合繊維製セーター	05. 4. 28
* 349/649	綿・化合繊維製ブラジャー	05. 4. 28
* 350/650	綿・化合繊維製ドレッシングガウン	05. 4. 28
* 620	その他化合繊維物	05. 4. 28
* 638/639	紳士・婦人用化合繊維製シャツ、ブラウス（ニット）	05. 4. 28
* 647/648	紳士・婦人用化合繊維製ズボン	05. 4. 28

(2) 政府の主導に基づく品目

* 338/339	紳士・婦人用綿製シャツ、ブラウス（ニット）	05. 4. 4
* 347/348	紳士・婦人用綿製ズボン	05. 4. 4
* 352/652	綿・化合繊維製下着	05. 4. 4

(3) 業界の「恐れ」に基づき要請された品目（注：下線を付した品目はパブリックコメント期間を終了した品目、（ ）の日付けはパブリックコメントの終了期日）

* 349/649	綿・化合繊維製ブラジャー（05. 6. 8）	04. 12. 22
* 350/650	綿・化合繊維製ドレッシングガウン（05. 6. 6）	04. 12. 16
* 222	ニット生地（05. 5. 31）	04. 12. 13
* 447	毛製ズボン（05. 5. 23）	04. 12. 6
* 620	その他化合繊維物（05. 5. 17）	04. 12. 1
<u>* 301</u>	<u>綿糸（コームド）</u>	04. 11. 18
<u>* 338/339</u>	<u>紳士・婦人用綿製シャツ、ブラウス（ニット）</u>	04. 11. 3
<u>* 340/640</u>	<u>紳士用綿・化合繊維製シャツ（布帛）</u>	04. 11. 3
<u>* 352/652</u>	<u>綿・化合繊維製下着</u>	04. 11. 3
<u>* 638/639</u>	<u>紳士・婦人用化合繊維製シャツ、ブラウス（ニット）</u>	04. 11. 3
<u>* 647/648</u>	<u>紳士・婦人用化合繊維製ズボン</u>	04. 11. 3
<u>* 347/348</u>	<u>紳士・婦人用綿製ズボン</u>	04. 10. 30

○ CITA、政府主導の3品目のセーフガード調査で黒の決定、セーフガード発動へ

CITAは、5月13日、去る5月9日にパブリックコメント期間が終了した上述の政府主導の3品目のセーフガード調査に関し、黒の決定を行ったと発表した。同時に4月7日より検討を再開していた「恐れ」に基づく業界よりの同じ3品目の申請についても黒の決定を下した。

今後5月末までに、中国政府に協議要請を行う予定。協議要請および規制枠は官報に公示される。協議要請日から30以内に協議が開始され、90日以内に相互に満足のいく解決を求めて

協議を行うが、協議期間内に相互に満足のいく解決が出来なければ、協議要請日以降 12 月 31 日まで官報に公示される枠水準に規制されることとなる。

米国の当該 3 品目の輸入状況（商務省繊維統計局発表）

* 綿製ニットシャツ、ブラウス（CA. 338/339）

	2004（1-3）	2005（1-3）	前年同期比 （%）
（数量：千ダース）			
全世界	83,663	97,198	116
中国	528	7,137	1,377
（金額：千ドル）			
全世界	2,783,863	3,137,173	113
中国	37,504	232,482	620

* 綿製ズボン（CA. 347/348）

	2004（1-3）	2005（1-3）	前年同期比 （%）
（数量：千ダース）			
全世界	41,032	47,270	115
中国	406	6,794	1,673
（金額：千ドル）			
全世界	2,812,942	3,171,259	113
中国	50,900	388,726	764

* 綿・化合繊維製下着（CA. 352/652）

	2004（1-3）	2005（1-3）	前年同期比 （%）
（数量：千ダース）			
全世界	57,451	63,887	111
中国	1,256	5,207	415
（金額：千ドル）			
全世界	727,384	769,996	106
中国	29,965	69,579	232

2. E U

○ E Uも対中繊維セーフガードの正式調査を開始

欧州委員会は、4月24日のMandelson欧州委員会通商担当委員の調査開始の勧告を受けて、9品目の対中繊維セーフガードの調査開始を4月28日に正式決定し、4月29日付け官報に公示し、即時調査を開始した。

これに伴い、EU委員会が先に制定した、対中セーフガード手続きに関するガイドラインに沿って、セーフガード調査と並行的に中国との非公式協議が開始され、2ヶ月以内にセーフガード発動の可否が決定されることとなるが、フランス等の加盟国は、EUの対中繊維セーフガードガイドラインで認められている緊急条項（事態の緊急性に鑑み、即中国に公式協議を申し込む）の発動を要請している。

EUの調査対象品目と中国からの輸入状況（EU委員会の発表資料より）

<u>カテゴリー</u>	<u>品目明細</u>	<u>単位</u>	<u>危険水域基準</u> <u>（年間の1/4）</u>	<u>2005（1-3月）</u> <u>輸入実績</u>	<u>危険水域比</u> <u>（％）</u>
4	Tシャツ	1000枚	95,737	150,665	157
5	プルオーバー	1000枚	32,162	65,020	202
6	紳士用ズボン	1000枚	37,844	104,105	275
7	ブラウス	1000枚	13,018	21,972	168
12	靴下類	1000着	66,015	73,414	111
15	婦人用オーバーコート	1000枚	11,560	11,960	103
31	ブラジャー	1000枚	41,688	44,229	106
115	亜麻・ラミー糸	トン	886	1,098	124
117	亜麻織物	トン	566	2,348	415

(3) 中国

このように、欧米の動きが、対中繊維セーフガード発動に向けて動き出したのに対し、中国は警戒感を深めている。

中国政府は、これらは、WTOの原則に反する保護貿易措置であり、中国に対する不公平な扱いだと、強く反発しているが、一方で貿易摩擦の緩和措置として今年から導入した輸出税、輸出事前ライセンス制が今のところ余り効果を生み出すに至っていないことから、更なる輸出自主規制措置を、政府、業界が一体となって検討中であると伝えられる。具体的な内容は明らかになっていないが、最低価格制、数量規制、輸出税の引き上げなどが検討されている模様である。

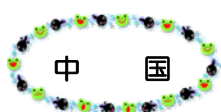
また、今後貿易摩擦の激化が予想されることより、輸出業者、バイヤー共に当面先行きの取引を敬遠する動きも伝えられており、リスク分散の観点から、中国の業者は縫製基地の海外への移転、またバイヤーはソーシング先の変更等を検討しているとも報じられている。

今年の1-2月の中国からの縫製品の輸出は、予想されたとおり衣料品を中心に急増した

が、3月の輸出は大幅に減速しており、4月以降もこの伸びの鈍化が続くかどうか注目されるところである。

中国の通関統計によると、2005年1～3月の中国の米国、EU向け繊維品輸出状況は次の通りである。(単位：1000ドル) ()内は前年同期比(%)

	全世界	米国	EU
全繊維品	21,297,344 (120)	3,178,025 (178)	3,678,874 (151)
布帛衣料品	7,269,040 (117)	1,375,289 (177)	1,450,466 (154)
ニット衣料品	5,470,709 (117)	779,302 (225)	974,428 (161)



◎ 2005年1～3月の繊維品貿易・輸出は20%増、輸入は17%減

【輸出】

—輸出は20%増の212億9,734万ドル、但し3月単月の伸びは大幅に減速—

このほど発表された中国の海関統計によると、2005年1～3月の中国の繊維品輸出は、20%増の212億9,734万ドルとなった。

クオータフリーの時代を迎え、中国からの繊維品輸出の本年の動向が非常に関心を集めているが、単月の輸出状況をみると、1月は29%増、2月は34%増と大幅に伸びたが、3月単月の輸出は4%増と大幅に減速しており、これが一時的なものか、さらに継続するのか、中国側の輸出抑制措置とも関連し、今後の動向が注目されるところである。

<品目別輸出状況>

2005年1～3月の繊維品輸出を品目別にみると、伸び率は金額ベースで、綿類が54%増、糸類が6%増、織物類が26%増、衣料品類が17%増と糸類を除き、各々高率の伸びを維持しているが、3月単月では織物類、衣料品類の伸び率の減速が目立っている。

まず、中国の繊維品輸出全体の60%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品の輸出は17%増の127億3,975万ドルとなった。内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が17%増の54億7,071万ドル、また太宗の布帛製衣料品及び同付属品の輸出も17%増の72億6,904万ドルとなっている。因みに、3月だけ見ると、ニット製衣料品は8%減と減少に転じ、布帛製衣料品も3%増に止まっている。

織物類の輸出は、数量で23%増の36億7,814万メートル、金額で26%増の33億1,903万ドルと依然大きな伸びを維持しているが、3月単月の伸びは大きく縮小している。

内訳は、前年は苦戦した最大品目の綿織物が数量で24%増の12億620万メートル、金額で21%増の12億7,827万ドル、ポリエステル長繊維織物も数量で25%増の11億8,502万メートル、金額で33%増の9億2,755万ドルと数量、金額共に3月は伸びは鈍ったものの依然高い伸びを維持している。その他の主要織物では、合繊短繊維織物が数量で21%増の7億377万メートル、金額で36%増の4億3,220万ドル、ニット生地が数量で1%増の16万3,231トン、金額で8%増の6億3,506万ドルとなっている。

糸関係の輸出は、数量で6%増の28万798トン、金額で6%増の9億7,264万ドルと堅調な推移となっている。内訳では、最大品目の綿糸が、数量で10%減の9万7,658トン、金額で17%減の2億8,212万ドルと低調な推移となった。その他の糸類では、合繊短繊維糸は数量で4%減の6万8,006トン、金額で6%増の1億8,851万ドルと数量減と金額増となったが、合繊長繊維糸は数量で66%増の7万4,964トン、金額で75%増の1億8,024万ドルと数量、金額共に大幅な増加となった。合繊長繊維糸のうち、太宗のポリエステル長繊維糸は数量で85%増の4万9,083トン、金額で122%増の8,537万ドルと著増し、ナイロン糸も数量で48%増の1万7,508トン、金額で78%増の5,766万ドルと大幅な伸びとなった。

綿類の輸出は、綿花の輸出は激減（数量で78%減、金額で81%減）しているが、合繊綿はポリエステル綿の激増により、数量で83%増の5万6,065トン、金額で114%増の7,127万ドルと急増している。

<国別輸出状況>

地域別では東アジアがシェア44%（1%増）を占め、西アジアが5%（4%減）、ヨーロッパが23%（45%増）、北米が17%（75%増）、中米が2%（横ばい）、南米が2%（47%増）、アメリカが4%（35%増）、大洋州が3%（16%増）の市場構成となっており、何れも3月の伸びは鈍化しているが、欧米市場の高い伸びが矢張り目立っている。

国別では、1位日本（37億6,073万ドル：7%増）、続いてEU（36億7,887万ドル：51%増）、米国（31億7,803万ドル：78%増）、香港（30億278万ドル：7%減）、韓国（7億4,877万ドル：9%減）の順で、この5大市場で全体の輸出の67%のシェアを占め、EU、米国が突出した伸びとなっている。

主要輸出品目別に国別輸出先を見ると、衣料品については、ニット製衣料品は、トップ市場は日本（13億4,924万ドル：11%増）で、続いてEU（9億7,443万ドル：61%増）、米国（7億7,930万ドル：125%増）、香港（6億4,607万ドル：16%減）、オーストラリア（2億2,820万ドル：16%増）の順となっている。また、布帛製衣料品の輸出先は、1位が日本（17億7,743万ドル：2%増）、次いでEU（14億5,047万ドル：54%増）、米国（13億7,529万ドル：77%

増)、香港(8億838万ドル:11%減)、韓国(2億3,946万ドル:18%減)の順となっており、米国、EU向けの繊維品輸出の大幅な増加は、品目的には衣料品輸出の激増が大きな要因となっている。

織物類については、綿織物の主要輸出先は、香港(2億5,073万メートル:4%増)、EU(8,232万メートル:97%増)、韓国(8,911万メートル:40%増)、日本(7,335万メートル:25%増)、ベニン(7,079万メートル:174%増)で、何れも好調な推移となっている。

合繊短繊維織物は、第1位が香港(1億94万メートル:2%増)で、以下韓国(5,991万メートル:7%増)、ミャンマー(4,149万メートル:134%増)、アラブ首長国(3,592万メートル:4%増)の順となっている。

一方、ポリエステル長繊維織物の主要輸出先は、アラブ首長国(1億4,351万メートル:7%減)、EU(1億4,130万メートル:3%減)、イラン(1億1,241万メートル:52%増)、ブラジル(6,202万メートル:48%増)、パキスタン(5,224万メートル:279%増)、香港(4,384万メートル:32%減)、韓国(3,353万メートル:6%減)の順となっている。EUの減少は、この3月中旬のダンピング関税賦課の影響と見られ、EU向けの同織物の輸出は今後大きく後退すると予想される。

【輸 入】

－輸入は17%減と大幅な減少傾向－

輸入は、昨年は特に前半に、綿花の輸入が活発な国内需要増を反映して激増したこともあり、大きく伸びたが、今年はこの綿花の輸入が大きく減少に転じ、またその他原料、織物類等の輸入も国内の増産を背景に低調で、全体では前年同期比17%減の46億1,515万ドルと大きく減少に転じている。

この結果、中国の2005年1～3月の繊維品貿易収支の黒字幅は前年比37%増の166億8,219万ドルとなり、中国の外貨獲得に大きく貢献している。このうち、主要国との繊維品貿易をみると、日本とは28億9,538万ドル、香港とは26億8,384万ドル、米国とは28億4,253万ドル、EUとは33億6,236万ドルの各々の黒字となり、この4カ国で中国の繊維品貿易全体の黒字額の71%を占めている。

<品目別輸入状況>

輸入の品目別内訳では、まず綿関係では、綿花の米国からの輸入が激減していることもあり、数量で41%減の73万8,341トン、金額で41%減の11億9,058万ドルと大幅に減少した。合繊綿の輸入も低調で、数量で21%減の21万6,306トン、金額で1%減の3億4,535万ドルとなった。合繊綿の内訳は、アクリル綿が数量で11%減の11万5,611トン、金額で9%増の2億1,460万ドルと数量減の金額増、一方ポリエステル綿は数量で32%減の9万4,461トン、

金額で18%減の1億1,312万ドルとなっている。

因みに、前年前半特に急増した綿花の輸入は、数量で61%減の29万5,577トン、金額で73%減の3億4,225万ドルと激減している。

糸類の輸入も、数量で21%減の34万9,143トン、金額で14%減の8億2,971万ドルと低調な推移となっている。品目別では、綿糸の輸入は、数量で16%減の16万1,620トン、金額で19%減の3億3,971万ドルとなった。合繊長繊維糸は、数量で28%減の13万7,927トン、金額で7%減の3億4,690万ドルとなった。この内訳は、大宗のポリエステル糸は数量で36%減の6万7,634トン、金額で20%減の1億2,144万ドル、一方ナイロン糸は、数量で18%減の5万2,783トン、金額で4%増の1億3,364万ドルとなっている。その他糸では、合繊短繊維糸は数量で17%減の3万2,326トン、金額で16%減の7,735万ドルとなった。

織物類の輸入についても、数量で10%減の9億6,154万メートル、金額で2%減の12億7,520万ドルと数量、金額共に原料類ほどではないが低調な推移となっている。

品目別では、最大輸入品目の合繊長繊維織物は数量で16%減の4億794万メートル、金額で3%減の4億162万ドルとなった。内訳は、ポリエステル織物が、数量で28%減の1億8,022万メートル、金額で5%減の1億9,922万ドル、ナイロン織物は、数量で16%減の1億4,011万メートル、金額で1%減の1億1,719万ドルと各々減少した。

綿織物は数量で1%減の3億2,421万メートル、金額で2%増の4億8,814万ドルと数量微減の金額微増、また合繊短繊維織物は数量で8%減の1億5,144万メートル、金額で8%減の1億7,932万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

その他品目では、ニット生地が数量で4%減(9万289トン)、金額で2%増(3億8,647万ドル)、コーテッド織物は数量で17%減(5万9,534トン)、金額で2%増(2億995万ドル)と各々数量減の金額増となっている。

衣料品の輸入は、布帛製衣料品が2%増の1億6,911万ドル、ニット製衣料品は4%減の9,654万ドルとなっている。

<国別輸入状況>

国別輸入では、日本(8億6,536万ドル:1%減)、台湾(7億1,931万ドル:10%減)、韓国(6億3,396万ドル:3%増)、米国(3億3,550万ドル:62%減)、香港(3億1,894万ドル:13%減)、EU(3億1,651万ドル:23%増)がベスト6で、加工用の原材料を中心に、これら6カ国からの輸入で全体の69%を占めている。因みに、州別構成では、東アジアからの輸入が全体の75%(5%減)を占め、北米が8%(61%減)、欧州が7%(20%増)、大洋州が5%(2%増)となっている。

主要輸入品目別に国別輸入先を見ると、合繊綿の輸入は、金額ベースでは、日本(8,059万ドル:4%増)、韓国(7,679万ドル:6%増)、台湾(6,929万ドル:28%減)の順でこの3カ

国で全体の 66%を占めている。また、数量ベースでは、台湾が 43%減（5 万 1,624 トン）、韓国が 18%減（5 万 279 トン）、日本が 12%減（3 万 9,901 トン）と何れも低調な推移となっている。

一方、合繊長繊維糸の輸入は、金額ベースで、台湾（1 億 4,248 万ドル：22%減）がトップで、続いて韓国（7,380 万ドル：8%減）、日本（3,174 万ドル：9%減）の順で、この 3 カ国で全体の 71%を占めており、何れも減少推移となった。数量ベースでも、台湾が 34%減（7 万 7,354 トン）、韓国が 39%減（2 万 4,285 トン）、日本が 7%減（4,876 トン）と各々大きく減少している。

織物類の輸入は上記 3 国と香港の 4 カ国からの輸入が圧倒的なシェアを占めている。

合繊長繊維織物については、1 位が台湾（1 億 8,731 万メートル：26%減）、続いて韓国（9,154 万メートル：3%増）、日本（5,159 万メートル：1%増）、香港（2,547 万メートル：25%減）の順で、この 4 カ国で全体の 87%を占めている。

合繊短繊維織物の輸入は、台湾（5,617 万メートル：1%減）、韓国（2,911 万メートル：6%減）、日本（2,372 万メートル：10%減）、香港（1,336 万メートル：27%減）の順で、この 4 カ国で 81%を占めている。

また、綿織物の輸入は、香港（8,201 万メートル：2%増）、日本（4,451 万メートル：7%減）、パキスタン（2,757 万メートル：6%増）、台湾（2,542 万メートル：10%減）、韓国（1,849 万メートル：9%増）の順となっている。

◎ 中国、ポリウレタンに対する対日等アンチダンピング調査を開始

中国商務部は 2005 年 4 月 13 日、ポリウレタンのアンチダンピング調査の開始を公告（商務部 2005 年第 19 号公告）、即日調査を開始した。

公告の概要は次のとおり。

* 申請者：山東煙台スパンデックス股分有限公司、浙江華峰スパンデックス股分有限公司、紹興龍山スパンデックス股分有限公司が国内業界を代表して申請、政府は 2005 年 2 月 23 日付けで受理。

* 対象国：日本、シンガポール、韓国、米国、台湾

* 対象品目：ポリウレタン長繊維糸（中国 H S 輸入分類番号：54024920：ポリウレタン長繊維糸（単糸）及び 54026920：ポリウレタン長繊維糸（マルチプル又はケーブルヤーン））

* 調査品目輸出の対象時期：2004 年 1 月 1 日から 2004 年 12 月 31 日に中国向けに輸出されたもの。

* 産業損害調査時期：2001年1月1日から2004年12月31日まで。

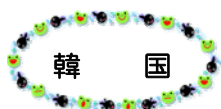
* 登記応訴：利害関係者は本公告公布から20日以内に商務部貿易公平局に応訴を申請できる。
2004年1月から2004年12月までの中国大陸への輸出数量、金額を提出。同時に産業損害調査時期内の生産能力、生産量、在庫、工事中及び拡張計画、中国向け輸出数量・金額等の説明資料を提出する。

* 応訴不登記：所定期間内に応訴登記しなかった場合、商務部は関係資料提出を拒否し、手中の資料で裁定する権利を有する。

* 利害関係者の権利：調査申請人資格、被調査品目、調査範囲、その他に異議があれば、公告から20日以内に意見を書面で商務部に提出できる。利害関係者は、上記期間内に商務部アンチダンピング公開情報閲覧室で本事件の申請書の秘密でない文書を閲覧できる。

* 調査方法：調査機関はアンケート、サンプリング、公聴会、現場調査等で調査できる。

* 調査期間：4月13日から2006年4月12日までの1年以内に終了する予定。但し、特殊事情があれば、2006年10月12日まで延長できる。



◎ 木材梱包材の検疫要求事項を公表

—6月1日から導入—

日本荷主協会が入手した情報によると、韓国の検疫局は今年6月1日（船積日）から導入する ISPM No. 15 に準拠した輸入木製梱包材の検疫要求事項をウェブサイトに掲載した。WTO（世界貿易機関）への通告は確認されていない。

新規則では、パレット、クレート、ダンネージ、パッキングブロックなど全ての未加工木製梱包材を規制対象に、熱処理または臭化メチル（メチルブロマイド）薫蒸で消毒処理したうえ、梱包材の相対する二面に承認された処理方法を証明するマークを付けることが義務付けられる。

熱処理は木材中心温度 56℃以上で 30 分以上加熱処理すること、臭化メチル薫蒸の最低温度は 10℃以下であってはならず、最低薫蒸時間を 16 時間に設定している。

また、日本、中国、台湾、米国、カナダ、メキシコ、ポルトガルのマツノサイセンチュウ生

息国からのマツ属品種、カラマツ属品種、ヒマラヤスギ属品種とベトナムからのマツ属品種は臭化メチルで最低気温 10℃以上で最低 24 時間薫蒸するよう要求している。

当初、マツノザイセンチュウ生息国からの針葉樹材は熱処理のみ認めるとしていたが、中国とのマツノザイセンチュウ駆除の共同研究に基づき、臭化メチルによる薫蒸処理も中国と同様の基準を設けて認めることにした。

認証マークのない木製梱包材は廃棄または積み戻し、また認証マークが付いていても生きた規制害虫が発見された場合は、防除処理または廃棄・積み戻し処分となるほか、梱包材を再使用する際は、再消毒と再マーキングが必要になる。

荷協では、コンテナ内のダンネージ等も、消毒済み木材に承認マークを付けるか、集成材など規制対象外の加工木材や非木材資材を使うなどの対策が必要になると指摘している。



◎ 2004 年 1～12 月の繊維品貿易・輸出は好調に推移、輸入は 2 桁の増加

<輸出は 8%増の 76 億 4,744 万ドルと好調に推移>

インドネシアの繊維産業は、中国品等との競合激化、また国内的には、人件費の高騰など諸経費のコストアップもあり、厳しい状況が伝えられているが、2004 年の繊維品輸出は、特に下半期に伸び、8%増の 76 億 4,744 万ドルと好調な推移となった。

地域別輸出をみると、シェア 32%の北米は 15%増、同 26%の東アジアが 7%増、同 25%の欧州は 7%増と、主要地域は揃って好調な推移となった。

主要輸出国は、米国 (23 億 7,125 万ドル：16%増)、EU (16 億 9,864 万ドル：4%増)、日本 (4 億 7,198 万ドル：11%増)、アラブ首長国 (2 億 6,972 万ドル：23%減)、韓国 (2 億 10 万ドル：14%増)、マレーシア (1 億 9,243 万ドル：6%減)、香港 (1 億 8,303 万ドル：8%増)、中国 (1 億 5,777 万ドル：4%減)、シンガポール (1 億 5,078 万ドル：10%増)、トルコ (1 億 3,807 万ドル：47%増) の順となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全繊維品輸出額の 56%を占めているが、このうち、ニット製衣料品の輸出は 8%増の 14 億 7,563 万ドル、太宗の布帛製衣料品も 8%増の 28 億 1,405 万ドルと共に増勢推移となった。ニット衣料品市場のベスト 5 は、米国 (5 億 9,059 万ドル：20%増)、EU (5 億 3,442 万ドル：7%増)、アラブ首長国 (4,891 万ドル：9%減)、シンガポール (4,239 万ドル：25%増)、日本 (3,082 万ドル：7%減) の順で、特に米国、EU向けで全体の 76%と圧倒的なシェアを占めている。布帛製衣料品市場のベスト 5 は米国 (15 億 7,867 万ドル：14%増)、EU (6 億 5,651 万ドル：横ばい)、日本 (8,542 万ドル：10%増)、アラブ首長国 (6,518 万

2004年1～12月のインドネシアの繊維品輸出入状況

	輸 入				輸 出				前年比	
	2003年実績		2004年(1～12)		2003年実績		2004年(1～12)			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計		1,513,243		1,718,546		7,647,441		108		
スフ綿	TON	672,548	838,006	642,239	152,413	197,805	99	139		
合繊綿	TON	13,101	19,926	8,106	63,272	97,467	177	223		
(ポリエステル)	TON	120,378	154,883	167,360	47,177	54,618	70	90		
(アクリル)	TON	32,960	30,616	73,433	42,581	48,564	69	89		
糸合計	TON	82,163	115,603	88,045	388	476	56	58		
人絹糸	TON	87,626	196,794	109,434	720,625	1,480,158	103	120		
スフ糸	TON	15,181	47,015	20,451	1,866	5,780	81	103		
合繊長繊維糸	TON	1,140	2,848	132	53,510	125,757	115	144		
(ナイロン)	TON	31,267	80,035	54,574	284,239	468,285	103	119		
(ポリエステル)	TON	10,703	26,806	9,358	40,640	101,624	108	126		
合繊短繊維糸	TON	14,306	29,827	38,950	239,290	350,721	104	122		
綿糸	TON	6,128	13,760	8,208	247,826	523,237	110	127		
糸合計	TON	31,259	49,404	21,980	129,567	348,274	87	103		
繊維品合計										
綿織物		206,142		211,658		1,142,426		93		
人絹織物	TON	25	1,013	13	1,361	8,503	3691	3716		
スフ織物			3,658			32,618		59		
合繊長繊維織物			5,645			24,528		93		
(ナイロン)			52,921			468,358		86		
(ポリエステル)			6,203			3,081		76		
合繊短繊維織物			36,140			140,434		113		
綿織物			23,779			237,205		96		
毛織物			101,686			367,363		102		
不織布	TON	655	10,089	83	81	625	85	129		
タイヤコード織物	TON	8,048	27,018	10,350	10,172	21,955	102	113		
コーテッド織物	TON	10,273	30,200	11,086	19,578	66,653	91	92		
ニット生地	TON	12,318	52,940	11,775	5,289	20,031	95	100		
ニット製衣料	TON	9,297	51,879	11,608	15,607	100,405	110	168		
布帛製衣料			7,964			1,475,628		108		
その他			7,120			2,814,054		108		
			95,180			328,326		116		

単位:1000ドル

出所:インドネシア通関統計

ル:33%減)、カナダ(6,461万ドル:2%増)で、ここでも米国、EU向けで79%と圧倒的なシェアを占めている。

織物類の輸出は中国等との競合激化等により、全体で7%減の11億4,243万ドルと衣料品とは対照的に不振推移となった。中でも最大品目の合繊長繊維織物は14%減の4億6,836万ドルと前年に続き大幅な減少推移となった。合繊長繊維織物市場のベスト5は、アラブ首長国(9,383万ドル:17%減)、EU(6,178万ドル:28%減)、マレーシア(5,209万ドル:5%減)、サウジアラビア(4,053万ドル:14%減)、日本(1,895万ドル:3%減)の順で、何れも減少を余儀なくされている。

その他の織物では、綿織物が2%増の3億6,736万ドルと堅調に推移、一方合繊短繊維織物は4%減の2億3,721万ドルとなった。綿織物の主要市場はEU(8,979万ドル:1%増)、香港(4,121万ドル:2%増)、米国(3,316万ドル:12%減)、日本(3,049万ドル:3%減)、バングラディシュ(2,678万ドル:30%増)の順となっている。また、合繊短繊維織物の主要市場は、EU(5,685万ドル:14%増)、日本(2,828万ドル:49%増)、中国(1,567万ドル:16%増)、マレーシア(1,529万ドル:21%減)、アラブ首長国(1,507万ドル:56%減)、タイ(1,304万ドル:14%減)となっている。

原料関係の輸出は、綿類は、合繊綿は減少推移となったが、スフ綿が大きく伸び、全体で39%増の1億9,781万ドルとなった。また、糸類の輸出も、合繊長繊維糸、合繊短繊維糸、綿糸が特に金額で大きく伸び、糸全体としては、20%増の14億8,016万ドルと好調な推移となった。

<輸入は14%増の17億1,855万ドルと2桁の増加>

輸入は、各品目とも揃って金額的に増加基調で推移し、全体として14%増の17億1,855万ドルと2桁の大幅増加となった。

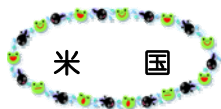
地域別では、シェア54%を占める東アジアからの輸入は18%増の9億290万ドル、シェア17%の北米は9%増の2億9,286万ドル、シェア9%のアフリカは73%増の1億5,957万ドルと揃って増加推移となったが、同じくシェア9%の大洋州は35%減の1億6,141万ドルと大きく後退した。

国別の主要輸入先は、米国(2億8,691万ドル:9%増)、台湾(1億9,839万ドル:30%増)、中国(1億6,464万ドル:1%減)、豪州(1億5,736万ドル:34%減)、韓国(1億4,872万ドル:10%増)、日本(9,989万ドル:5%減)、EU(9,626万ドル:13%増)の順となっている。

品目別では、綿関係では、合繊綿の輸入が大きく増加し、綿花、羊毛等の天然原料の輸入が減少したが、綿全体として14%増の9億5,626万ドルとなった。糸関係では、合繊長繊維糸、特にポリエステル長繊維糸また人絹糸、合繊短繊維糸の輸入が増大し、全体で24%増の2億4,489万ドルとなった。織物類の輸入は、綿織物、合繊長繊維織物の輸入が増加し、全体で3%増の2億1,166万ドルとなった。また、ニット生地は40%増の7,240万ドル、タイヤ

コードは22%増の3,693万ドルと大幅に増加したが、コーテッド織物の輸入は25%減の3,981万ドルと大きく減少した。衣料品の輸入は、未だ額的には小さいが、ニット製衣料品が114%増の1,702万ドル、一方布帛製衣料品は58%増の1,123万ドルと大きな伸びを記録した。

(注) 織物の統計は、例えば同じ合繊長繊維織物に分類される織物でありながら、その統計番号により、単位がKGとSMに分かれており、統一された数量が抽出できないため、金額ベースのみの統計となっている。



◎ 2005年2月の繊維品輸入、中国が2倍に急増

2005年2月の米繊維品輸入は、2004年12月末の繊維輸入規制撤廃を反映して、19%の大幅増となり、2月の輸入としては、過去最高の輸入量を記録した。これは、主として、中国からの輸入が2.1倍に急増したことによる。

また、1~2月の繊維品輸入も13%の大幅増となり、1~2月の輸入としては、過去最高の輸入量を示した。

【2月の輸入】

<紡織品、衣料品とも二桁の伸び>

2005年2月の米繊維品輸入は39億6,800万SME（平方メートル換算）で、前年同月に比べ19.4%増と、前年年11月以来の二桁増となった。この輸入量は、2月としては過去最高水準であった。

2月の輸入を品目別に見ると、ノン・アパレル（紡織品（=糸、織物）、その他繊維製品）及びアパレルとも二桁台の大幅な伸び率となっている。ノン・アパレルは22億800万SMEで17.3%増となり、2002年1月から続いている毎月の前年同月比増の記録を38カ月に伸ばした。

また、アパレル(衣料品)は17億5,900万SMEで22.2%増となり、前年11月以来の二桁増となり、7カ月連続の増加を記録した。

2月の地域別輸入では、中国からの輸入が12億7,400万SMEで2.1倍増と傑出した伸びを示し、とりわけ衣料品は3倍増と驚異的に増加し、規制撤廃のメリットを最大限に享受している。

【1~2月の輸入】

2005年1~2月の米繊維品輸入は78億6,000万SMEで、前年同月比12.6%増となり、1~2月の輸入としては過去最高の輸入量となった。

この1~2月の輸入を品目別に見ると、ノン・アパレルは44億5,500万SMEで10.7%増、

また、アパレルは 34 億 500 万 SME で 15.2%増と、いずれも 2 月の大幅増を反映して二桁増となった。

米国の繊維品輸入推移

単位； 100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
1995年	9,053	2.2	9,255	9.9	18,308	6.0
1996年	9,405	3.9	9,658	4.4	19,063	4.1
1997年	11,546	22.8	11,349	17.5	22,895	20.1
1998年	13,059	13.1	12,886	13.5	25,945	13.3
1999年	14,512	11.1	14,103	9.5	28,615	10.3
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,704	▲0.7	16,104	0.4	32,810	▲0.2
2002年	21,028	25.9	17,256	7.2	38,285	16.7
2003年	23,362	11.1	18,864	9.3	42,226	10.3
2004年	26,976	15.5	19,652	4.2	46,628	10.4
1月	2,135	14.6	1,517	▲3.2	3,651	6.5
2月	1,882	14.8	1,440	▲3.4	3,323	6.2
3月	2,231	25.7	1,615	7.7	3,846	17.5
4月	2,305	15.1	1,388	▲3.3	3,693	7.4
5月	2,350	18.9	1,342	▲5.1	3,691	8.9
6月	2,524	28.8	1,728	10.4	4,252	20.6
7月	2,350	10.4	1,855	▲2.3	4,205	4.6
8月	2,396	20.9	1,907	8.3	4,303	15.0
9月	2,223	10.0	1,954	9.3	4,178	9.7
10月	2,264	6.0	1,803	5.4	4,065	5.7
11月	2,202	17.7	1,597	24.6	3,800	19.3
12月	2,115	5.6	1,506	3.9	3,621	4.9
2005年	4,455	10.7	3,405	15.2	7,860	12.6
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	22.2	3,968	19.4

注；前年比は増減、▲は減少を示す（以下の表同じ）。出所：米商務省（DOC）

1～2月の米繊維品輸入を地域別に見ると、アジア地域では、中国を中心とするビッグ4（中国、香港、台湾、韓国）からの輸入が大幅に増加し、他方アセアンは伸び悩んでいる。また、米近隣地域からの輸入では、NAFTA（北米自由貿易協定）パートナー（メキシコとカナダ）が低迷しており、一方カリブ海諸国（CBI）は前年のマイナスから回復している。

<中国のシェア、31%に増大>

東アジア地域のうち、いわゆるビッグ4からの輸入は35.5%の大幅増となった。この中では、ビッグ4の太宗国である中国からの輸入が53.8%増と急増している。中国は引き続き供給国第1位の地位を保持し、そのシェアは前年同期の23%から31%に増大している。中国からの輸入では、アパレルが2.1倍増、糸が2.2倍増、織物が55%増、その他繊維製品が33%増といずれも大きく増加している。アパレルの中では、特に綿製ズボン（カテゴリー番号347、348）

が18倍増、綿製ニットシャツ（同338、339）が12倍増、綿・化合繊綿製ナイトウェア（同351、651）と綿・化合繊綿製下着（同352、652）が共に4倍増と驚異的な増加を示している。

他方、他のビッグ4構成国の韓国、台湾、香港からの輸入はいずれも中国の大躍進の煽りを受けて低迷している。ビッグ4の中で中国に続く大手供給国である韓国は主力の織物の不振で1.5%減、香港は太宗品目の衣料品が低調で16.6%の大幅減、台湾は衣料品とその他繊維製品が低迷し13.1%減となった。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年 1～2月	前年 同月比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,225	46,628	7,860	12.6
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,351	1,128	▲1.7
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,087	605	▲1.7
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,264	524	▲1.7
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	3,919	623	11.2
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,108	187	20.7
エルサルバドル	757	768	817	895	824	136	6.5
ドミニカ共和国	859	773	743	758	746	99	4.7
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,632	16,126	3,026	35.5
中国	2,218	2,211	4,963	8,287	11,664	2,418	53.8
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	325	▲1.5
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,299	169	▲13.1
香港	1,123	1,092	962	892	862	114	▲16.6
アセアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,135	812	1.7
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,111	174	10.8
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,274	209	▲3.9
フィリピン	929	916	817	794	711	102	▲17.5
ベトナム	35	33	358	827	905	145	18.7
カンボジア	265	389	474	561	673	115	14.1
EU(15カ国)	1,863	1,868	2,055	2,058	2,059	332	2.8
イタリー	562	521	518	533	462	68	▲11.9
ドイツ	359	457	551	484	476	84	25.5
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,038	1,939	1.1
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,966	465	2.5
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,914	357	18.6
バングラデシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,103	199	2.8
トルコ	867	871	1,068	1,026	981	144	▲3.9

<アセアン、伸び悩む>

1～2月のアセアンからの輸入は1.7%増と僅かな伸びととどまっている。アセアンの中では、タイ、ベトナム、カンボジアはいずれも主力の衣料品が好調でそれぞれ10.8%、18.7%、14.1%の大幅増となった。

しかし、インドネシアは糸とその他繊維製品、フィリピンは衣料品の大幅減が影響してそれぞれ3.9%減、17.5%減となり、アセアン全体の足を引っ張った形となっている。

<NAFTA、低迷>

NAFTA パートナーのメキシコとカナダからの1～2月の輸入では、メキシコは糸とアパレル、カナダは織物とその他繊維製品がそれぞれ不振で、共に1.7%の減少となった。

それでも、メキシコとカナダは、それぞれ供給国第2位と第3位の地位を保持している。

<CBI、順調>

CBIからの1～2月の輸入は、11.2%増と順調に推移している。CBIの中では、最大手のホンジュラスの20.7%増を筆頭に、エルサルバドルが6.5%増、ドミニカ共和国が4.7%増と、主要供給国は何れも順調に推移している。

CBIからの輸入は、アパレルが96%と殆どを占めている。

<EU、堅調>

EU（15カ国）からの1～2月の輸入は、2.8%増と堅調に推移している。但し、EUの主力国であるドイツとイタリアは明暗が分かれ、ドイツは糸と織物が好調で25.5%の大幅増となったが、イタリアは織物の不振が影響して11.9%の大幅減となった。

<その他地域では、インドが大幅増>

上記の主要地域以外に含まれない「その他地域」からの1～2月の輸入でも、東アジア諸国からの輸入が活発である。

特に、インドからの輸入は、主力の衣料品のみならず、糸、織物、その他繊維製品のいずれも大幅に増加し、18.6%増と大きく伸びた。

また、中国、メキシコ、カナダに次いで供給国第4位の座を占めているパキスタンからの輸入は、堅調な衣料品とその他繊維製品に支えられて2.5%増となった。

また、バングラデシュも衣料品を主体に2.8%増と堅調に推移している。

◎ 2005年3月の米大手小売店販売、悪天候で予想を下回る

—69社で4.1%増—

米大手小売店の2005年3月の販売は、季節はずれの寒い天候と石油の値上がりがいースター・ホリデー・セールスを湿らせ、予想を下回る4%増にとどまった。

米国の国際ショッピング・センター協会（1CSC）が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店（69社）の2005年3月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）4.1%増となり前月（4.9%増）、前年同月（6.8%増）の伸び率を下回った。

エコノミストは、「イースター・ホリデーが昨年の4月より1週間早く3月になったにもかかわらず、3月の小売販売が伸び悩んだのは、北東部や中部地域を中心に雪が降るなどの悪天候となったこと及び石油価格上昇の影響による」と分析している。

ストア・タイプ別販売は、ディスカウント・ストアは5.0%増と頑張ったが、衣料品専門店が0.6%増、百貨店が1.0%増と、何れも僅かな伸び率となった。

衣料品を中心に、タイプ別に大手小売店の販売状況を見ると、以下の通り。

<百貨店>

大手百貨店の2005年3月の販売は、高級百貨店は比較的堅調であったが、中級百貨店は殆どが苦戦した。なお、ディスカウント・ストアのKマートと合併したシアーズ・ローバックの3月の売上高は未発表である。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位；%

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
1月	8.2	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6
2月	7.6	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9
3月	9.9	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1
4月	4.2	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	
5月	6.8	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	
6月	7.4	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	
7月	6.9	4.4	3.4	2.6	4.2	3.3	
8月	6.7	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	
9月	6.7	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	
10月	5.7	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	
11月	4.1	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	
12月	6.7	0.7	2.2	1.0	3.9	2.7	
年間平均	6.7	4.0	2.6	3.1	2.9	3.9	

注；伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。（以下の表、同じ）

高級百貨店では、富裕層の顧客の旺盛な購買意欲を反映して、ノードストロムが5.5%増、ニーマン・マーカスが3.4%増、サクスが2.3%増と何れも堅調に推移した。

このうち、サクスは、パリジャン等の百貨店で構成されるサクス・デパートメント・ストア・グループ（SDSG）部門が1.8%増、サクス・フィフス・アベニュー・ストア等で構成される

サクス・フィフス・アベニュー・エンタープライズ (SFAE) 部門が 2.9%増と、いずれも安定した売上げを示した。同社のベスト・セール品目は、SDSG 部門ではアクセサリ、男性用服飾品、ソフト・ホーム商品、また SFAE 部門では男性用と女性用のコンテンポラリー・アパレル、子供服、女性用のベター・スポーツウエアとラージサイズ・スポーツウエア、アクセサリ、ブライダル商品であった。

ニーマン・マーカスは、部門別では、ニーマン・マーカスやバードルフ・グッドマンで構成される小売店部門は 1.6%の若干増にとどまった。これは、イースター・サンデーに店舗を閉めたことおよび昨年 3 月に行ったロイヤルティ・プログラム・イベントを今年は 4 月に遅らしたことによる。それでも、地域別では西部が好調な売行きを示し、商品では女性用コンテンポラリー・スポーツウエア、デザイナー・アパレル、ファッション・アクセサリ、男性用シューズがトップ・セール品目であった。また、ニーマン・マーカス・ダイレクト部門は、女性用のアパレル、シューズ、アクセサリ等の好調な販売に支えられて 12.6%の大幅増となった。

中級百貨店では、フェデレーテッドは 3.4%増と堅調であったが、メイが 10.8%減、ディラードが 8.0%減、コールズが 1.0%減となり、J. C. ペニーは 0.1%増のほぼ横ばいと、多くの百貨店が停滞している。

このうち、メイは、「3 月の大幅減は、大々的な販売促進イベントが昨年 3 月から今年は 4 月に移ったことによる。従って、4 月は、このイベントのシフトにより伸びると予想している」と説明している。

ディラードは、地域別販売では東部が堅調であったが、西部と中部は低調であった。また、商品別では、ランジェリー、アクセサリが堅調であったが、女性及び男性用アパレルは低迷した。また、J. C. ペニーは、地域別では南東部と西部が引続き好調であったが、中西部と北東部は低調であった。

<衣料品専門店チェーン>

大手衣料品専門店チェーンの 2005 年 3 月の販売は、春物衣料が悪天候で影響を受け、斑模様であった。

若者向け衣料品専門店チェーンでは、リミテッド・ブランドが 7.0%減、ギャップが 4.0%減と大手 2 社がマイナスとなった。しかし、アメリカン・イーグルは 29.2%増、アバクロンビー&フィッチは 21.0%増、エアロポステールは 6.8%増、パシフィック・サンウエアは 4.8%増と、何れもティーン向けの衣料品専門店チェーンは大きく売上げを伸ばした。

このうち、エアロポステールの首脳は、「3 月の販売は予想通りであり、満足している。春物のアソートメントに対する顧客の反応は良好であり、今後の春物商品の販売も順調に推移すると確信している」と語っている。

一方、若者向け衣料品専門店チェーン最大手のギャップの首脳は、「3 月の販売は、商品マージンが昨年を下回っており、失望している」と述べている。部門別販売では、オールド・ネ

イビー北米が前年同月の11%増から9%減、バナナ・リパブリック北米が同25%増から1%減、ギャップ北米が同5%増から1%減へと落ち込んでいるが、インターナショナル部門のみは6%減から1%増となった。

また、衣料品専門店チェーン第2位の地位にあるリミテッド・ブランドの部門別販売では、女性下着専門店のビクトリアズ・シークレットは1%増となったが、男女の既製服及びカジュアルウエア専門店のエクスプレス及び女性用ファッション衣料品専門店のリミテッド・ストアはニット・トップス、カジュアル・ボトム、ドレスといった女性用カジュアル・ウエアの不振でそれぞれ27%、15%の大幅減となり、衣料品部門合計で24%減となった。なお、バス用品専門店のバス・アンド・ボディー・ワークスは10%の大幅増となった。

キャリアウーマン向け主体の衣料品専門店チェーンでは、アン・テラー・ストアが1.7%減、タルボットが0.9%の微増と苦戦した。

このうち、タルボット首脳は、「3月の販売では、前半の2週間は東部海岸における天候不順もあって予想を下回ったが、第3週の初めからミッド・シーズン・セールス・イベントが始まり、値引き商品の販売が活発に推移したことから、後半の3週間は順調であった」と説明している。

また、アン・テラー・ストアは、部門別では、アン・テラー・ロフト（手頃価格衣料品店）部門が32%の大幅増となったが、アン・テラー（高級衣料品店）部門は3%減となった。アン・テラー・ロフト部門では、デニム、ニット・トップス、ニット・ドレッシング、布帛製品、ドレス、スリープウエアといったカジュアル商品が引続き良い売れ行きを示した。一方、アン・テラー部門では、セーター、ニット・キャミソールが売上げを伸ばした。

その他、男性用ビジネス・アパレル専門店のメンズ・ウエアハウスは15.3%の大幅増となった。一方、女性用ラージ・サイズ衣料品専門店大手のチャーミング・ショップズは3.0%減となった。チャーミング・ショップズは、「3月の販売は、特に当社ストアの大部分が営業している北東部と中西部における季節外れの寒い天候によって悪影響を受けた」と説明している。

<ディスカウント・ストア>

大手ディスカウント・ストアの2005年3月の販売は、ターゲットが8.2%の大幅増となり、ウォル・マートも4.3%増と堅調に伸びた。

このうち、米国のみならず、世界最大の小売企業であるウォル・マートは、「衣料品や芝生・ガーデン用品などの春物商品は計画を著しく下回ったが、イースター・ホリデー用商品の販売は計画通りであった」と説明している。部門別販売では、スーパー・マーケットのウォル・マート・ストアが5%増、会員制ウエアハウスのサムズ・クラブが2%増となった。

<オフプライス・ストア>

アパレルやホーム・ファッションのブランド商品等をディスカウント・プライスで販売するオフプライス・ストアの2005年3月の販売では、ロス・ストアズが3.0%増、TJXが1.0%増

と若干増にとどまった。

このうち、ロス・ストアズは、地域別ではフロリダとテキサスが順調であり、商品別ではジュニア用品、アクセサリ、シューズが何れも二桁増と好調であった。

米主要小売店の 2005 年 3 月の販売状況

単位；100 万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
		前年同月比
<百貨店>		
ディラード	637	-8.0
フェデレーテッド	1,359	3.4
J.C.ペニー	1,304	0.1
コールズ	1,091	-1.0
メイ	1,279	-10.8
ニーマン・マーカス	348	3.4
ノードストロム	657	5.5
サクス	586	2.3
<衣料品専門店チェーン>		
アバクロンビー&フィッチ	228	21.0
アメリカン・イーグル	185	29.2
アン・テーラー・ストア	192	-1.7
エアロポステール	87	6.8
チャーミング・ショップズ	231	-3.0
ギャップ	1,480	-4.0
リミテッド・ブランド	766	-7.0
メンズ・ウエアハウス	146	15.3
パシフィック・サンウエア	120	4.8
タルボット	202	0.9
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	4,408	8.2
ウォル・マート	27,976	4.3
<オフプライス・ストア>		
ロス・ストアズ	456	3.0
TJX	1,400	1.0

組合関係の会議と催事

【2005年4月】

輸出入

I. 「第4回繊維通商問題研究会」開催。

輸出

I. 「監事会」を開催。

II. 「平成17年度第1回企画委員会」開催。

輸入

I. 「第135回企画委員会」開催。

II. 監事会を開催。

6日(水)

輸入 (東京) 「アパレル委員会在京正副委員長会議」(尾川委員長)が開催され、2005年度アパレル委員会海外派遣ミッションについて検討が行われた。

11日(月)

輸出 (大阪) あずさ監査法人により会計監査が行われた。

12日(火)

輸出 (大阪) あずさ監査法人により会計監査が行われた。

14日(木)

輸出入 (大阪) 第19次日韓産産連年次合同会議が帝国ホテル大阪で開催され、日韓双方より52人が参加し、輸出入組合代表として中西副理事長及び内海専務理事が出席した。

輸入 (東京) 高橋公認会計士により会計監査が行われた。

15日(金)

輸入 (東京) 「第135回企画委員会」(里内委員長)が開催され①FTA等最近の通商問題②組合運営に関するタスクフォースの報告③賦課金率④中国の輸出税賦課に対する要望⑤その他(第9回中国紡織品進出口商会との定期協議、リサイクル対策G海外調査、中国商標法対策、最近の輸入動向)について説明と審議が行われた。

19日(火)

輸入 (東京) JICA所管事業での貿易・投資促進実務研修員(カンボジア・ラオス・ベトナム・モンゴル)が来所、事務局より組合概要、衣類輸入状況を説明。

(大阪) 「日本黄麻製品輸入協議会・運営委員会」(塩田委員長)が開催され、2004年度会計報告及び2005年度予算と2005年度事業計画について審議が行われた。

20日(水)

輸入 (東京) 「第61回貿易制度専門委員会」(原委員長)が開催され①委員長交替(大迫新委員長(丸紅)は貿易制度専門委員長・ロジスティクス対策G長・METI繊維製品3R推進会議委員にそれぞれ就任)②環境リサイクル対策Gオーストラリア調査

③日韓航路海上運賃付帯費用(EBS)④2005年度委員会活動予定について審議、検討が行われた。

21日(木)

輸出入 (東京) 官民合同の「第4回繊維通商問題研究会」(委員長:桜井=繊維産連常任委員)が開催され、アセアン3カ国FTAミッション報告と今後の活動方針などの検討が行われた。里内委員(輸出入組合企画委員長)の代理として、小村常務理事が出席した。

輸入 (東京)「在京絹委員会」(川村委員長)が開催され、今後の委員会活動並びに訪中ミッション派遣について検討が行われた。

22日(金)

輸出 (大阪) 監事会(島田監事他)が開催され、平成16年度決算の会計監査が行われた。

輸入 (大阪)「第85回寝具インテリア委員会」(吉田委員長)が開催され①「インテリア・ライフスタイル展」への出展について審議の後、情報交換が行われた。

25日(月)

輸入 (東京)「第7回関税評価対策G」(神谷G長)が開催され①事後調査に関する情報交換②今後の検討課題及び対応③「取得価格」について検討が行われた。

26日(火)

輸入 (東京) ①「監事会」(森山監事ほか)が開催され、平成16年度決算の会計監査が行われた。

②経済産業省において「第11回繊維製品3R推進会議」が開催され、当組合より諏訪環境リサイクル対策G長が出席した。

28日(木)

輸出 (大阪)「平成17年度第1回企画委員会」(里内委員長)が開催され、平成16年度事業報告書・収支決算書、平成17年度事業計画・予算各案などについて検討が行われた。

輸入 (東京) 尾川アパレル委員長はブルガリア大使館を往訪し、本年度アパレル委員会派遣ミッションに関し協力を要請した。

5月のスケジュール(5月2日現在)

2日(月)	輸入	(大阪)	日本黄麻製品輸入協議会 会計監査
9日(月)	輸入	(大阪)	第136回企画委員会
13日(金)	輸出入	(大阪)	輸出入合同理事会(輸出第23回・輸入第335回)
	輸入	(大阪)	寝具インテリア委員会「インテリアファブリックス展」出展打合せ
24日(火) ~25日(水)	輸出入	(大阪)	繊維の基礎知識研修会
25日(水)	輸入	(東京)	組合運営に関するタスクフォース第7回会合
30日(月)	輸出入	(大阪)	輸出入通常総会(輸出第6回・輸入第42回)
			理事会(輸出第24回・輸入第336回)
			合同懇親会



◎ 輸出入組合合同の通常総会及び懇親会の案内

日本繊維輸出組合・日本繊維輸入組合は、本年5月30日（月曜日）、大阪の輸出繊維会館・中地階（BM）会議室・ホールにて、下記の通り事業報告・計画及び決算・予算等に関する合同の通常総会及び懇親会を開催しますので、ご出席下さいますよう案内致します。

なお、ご出欠につきましては、4月28日付けご案内書添付の葉書（組合委員各位）又は出欠連絡票（役員・委員各）にて各組合宛にご連絡願います。

1. 日本繊維輸出組合・日本繊維輸入組合 合同通常総会

(1) 日本繊維輸出組合 第6回通常総会

- ① 開催日時 平成17年5月30日（月曜日） 午後3時30分～午後4時20分
- ② 開催場所 輸出繊維会館 中地階（BM）会議室
- ③ 議 題
 - ・ 平成16年度事業報告書及び決算書の承認に関する件
 - ・ 平成17年度事業計画及び収支予算の承認に関する件
 - ・ 理事一部改選に関する件 など

(2) 日本繊維輸入組合 第42回通常総会

- ① 開催日時 同 上 午後4時30分～午後5時20分
- ② 開催場所及び予定議題 同 上

2. 日本繊維輸出組合、日本繊維輸入組合 合同懇親会（パーティ）

- ① 開催日時 同 上 午後5時30分～午後7時
- ② 開催場所 輸出繊維会館 中地階（BM）ホール

* 通常総会と合同懇親会の間に合同理事会（輸出組合第24回、輸入組合第336回：午後5時20分～午後5時30分、中地階（BM）第5会議室）を開催しますので、両組合の役員各位はご出席願います。

お 知 ら せ

◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」（輸出組合）

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成17年6月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。

保険責任期間が「6ヵ月」延長されます。

* 平成 16 年 12 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの

* 平成 16 年 6 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月
となっております。

1. 提出期限：平成 17 年 6 月 20 日（月）

2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険（繊維品）

保険期間延長依頼書 2 通

（用紙は事務局で準備しています。）

② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー 1 通

3. 提出先：保険部（☎06-6201-1832）

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。（FAX:06-6201-1814）

保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2004 年 12 月度受付保険申込書番号

受付局区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 4	109235～ 109923	103819～ 104098	100480～ 100505
	510148～ 510903		

前受け以外に係る 2004 年 6 月度受付保険申込書番号

受付局区分 記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 4	104466～ 105262	101623～ 101977	100191～ 100255
	504550～ 505498		

お知らせ

◎「繊維の基礎知識」研修会の開催
(京阪神地区)(輸出入組合)

日本繊維輸出組合、日本繊維輸入組合および社団法人テキスタイル倶楽部は、京阪神地区の組合員・会員各位の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、下記により「繊維の基礎知識」(被服素材、縫製、染色加工等の基礎知識)研修会を開催しますので、ご案内します。

本研修会は、初心者向けのものでありますので、新入社員及び若手社員の方には奮ってご参加頂きたく、受講御希望の向きは本年4月26日付け組合員・会員通知同封の受講申込書により、下記連絡先にお申し込み下さい。

記

1. 日 時：平成17年5月24日(火)、25日(水) 午後1時～4時
2. 場 所：輸出繊維会館中地階(BM)ホール(大阪市中央区備後町3丁目4-9)
3. 受講料：無料(組合員・会員会社のみ)
4. 講師及び研修項目

第1日 5月24日(火) 午後1時～4時

(財)日本繊維製品品質技術センター 西部事業所 課長 舟木 圭氏

① 被服素材について

糸の原料の種類、織物・ニットの種類

② 縫製について

布帛の縫製、ニットの縫製

第2日 5月25日(水) 午後1時～4時

(財)日本繊維製品品質技術センター 西部事業所 課長代理 石田篤史氏

① 染色加工について

② 性能試験と品質基準及び安全性

③ 製品に必要な品質基準

④ クレーム事例と対策

5. 連絡先

日本繊維輸出組合 TEL: 06-6201-1812 FAX: 06-6201-1819

日本繊維輸入組合 TEL: 06-6202-5575 FAX: 06-6202-5585

(社)テキスタイル倶楽部 TEL: 06-6203-4120 FAX: 06-6203-4119

お知らせ

◎「外国為替の基本」講習会の開催
(京阪神地区)(輸出入組合)

日本繊維輸出組合、日本繊維輸入組合および社団法人テキスタイル倶楽部は、組合員・会員各位の若手社員・新入社員に対する教育補完の一環として、下記により「外国為替の基本」講習会を開催しますので、ご案内します。

つきましては、受講ご希望の向きは本年5月16日付け組合員・会員通知同封の受講申込書により、来る6月16日(木)までに、下記連絡先にお申し込み下さい。

敬 具

記

1. 日 時 平成17年6月23日(木) 午後1時～午後5時
2. 場 所 大阪府中央区備後町3丁目4-9 輸出繊維会館中地階ホール
3. 受講料 無 料
4. 講 師 (株)東京リサーチインターナショナル大阪貿易投資相談所
次長 平尾 喜代次 氏
5. 講習項目
 - (1) 為替
 - (2) 国際収支
 - (3) 並為替による国際決済
 - (4) 逆為替による国際決済
 - (5) 商業信用状
 - (6) 外国払い切手
 - (7) 両替
 - (8) 為替相場
 - (9) 外国為替法
6. 連絡先
 - 日本繊維輸出組合 TEL: 06-6201-1812 FAX: 06-6201-1819
 - 日本繊維輸入組合 TEL: 06-6202-5575 FAX: 06-6202-5585
 - (社)テキスタイル倶楽部 TEL: 06-6203-4120 FAX: 06-6203-4119

お知らせ

－6月の輸入通関手続相談窓口開設日－

6月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2005年6月8日(水)及び6月22日(水)
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E-Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問い合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

組合員情報

組合員の脱会

- (輸 出) 有限会社ウイナー・ウエイ・ニッティング・ファクトリー・リミテッド (2005年4月18日付)
泰東製鋼株式会社 (2005年5月3日付)
株式会社フェリシモ (2005年5月7日付)
- (輸 入) 東郊株式会社 (2005年3月31日付)
松屋商事株式会社 (2005年4月10日付)

取引照会・展示会案内

【原文は、輸入及び展示会は輸入組合・市場対策室(Tel:06-6202-5575)に保管していますので、必要な向きはご照会下さい。また、輸出の詳細は同組合のホームページ(<http://www.jtea.or.jp>)をご覧ください。】

輸入	<p>No.4279 <u>インドネシア</u> <u>繊維屑</u></p> <p>会社名 : PT. EXTEX INDO NUSANTARA</p> <p>住所 : Jl. Raya Tenaru No.102, Gresik 61177, Indonesia</p> <p>担当者 : Mr. Lisi Pelangi, Marketing</p> <p>F A X : 62-31-750-6666</p> <p>T E L : 62-31-750-6000</p> <p>品 目 : Cotton Yarn Waste, Denim Shoday, Jute Shoday, etc.</p>
輸入	<p>No.4280 <u>インド</u> <u>綿織物、家庭用品等</u></p> <p>会社名 : CARES INTERNATIONAL</p> <p>住所 : CSI ITI Campound, Church Corner, Karur-639 001, Tamil Nadu, India</p> <p>担当者 : Mr. A. Vijay Antony, Proprietor</p> <p>F A X : 91-4324-26-1760</p> <p>T E L : 91-4324-23-9797</p> <p>品 目 : Cotton Fabrics, Towela, Table/Place Mats, Dish Towels, Curtains, etc.</p>
輸入	<p>No.4281 <u>パキスタン</u> <u>織物</u></p> <p>会社名 : YASIR IKRAM TEXTILE INDUSTRIES</p> <p>住所 : G.T. Road, More Eminabad, Gujranwala, Pakistan</p> <p>担当者 : Mr. Nadeem Ikram, Director</p> <p>F A X : 92-431-26-4400</p> <p>T E L : 92-431-26-3900</p> <p>品 目 : 100% Cotton and Cotton/Polyester mixed Fabrics.</p>
輸入	<p>No.4282 <u>バングラデシュ</u> <u>ジュート品</u></p> <p>会社名 : SUMIT COTTAGE</p> <p>住所 : 199 Maradia, Bhuayan Para Road, Khilgaon, Dhaka-1219, Bangladesh</p> <p>担当者 : Md. Shahidul Alam. Mona, proprietor</p> <p>F A X : 880-2-721-9040</p> <p>T E L : 880-2-721-2413</p> <p>品 目 : High Quaality Jute Goods, etc.</p>
輸入	<p>No.4283 <u>スペイン</u> <u>女性用衣料品</u></p> <p>会社名 : KLEYMAC, S.L.</p> <p>住所 : Ctra, De Molins de Rei, 215-217・08205 Sabadell, Spain</p> <p>担当者 : Mr. Montse Morett Lao</p> <p>F A X : 34-93-710-3651</p> <p>T E L : 34-93-720-5730</p> <p>品 目 : Women's Shirts, T-Shirts, Skirts, Jackets, Other Women's Wears etc.</p>

《国内》

No.1049

第8回国際アパレルマシンショー

会期：2005年5月18日(水)～21日(土) 10:00～17:00

但し、最終日は、16:00まで

会場：インテックス大阪2・3・4・5号館

主催：(社)日本縫製機械工業会

後援：大阪府、大阪市、日本貿易振興機構、日本商工会議所、大阪商工会議所

出展社数：海外20カ国を含め約300社

展示商品：織、編、染色の各種繊維製造機器

問い合わせ先：(社)日本縫製機械工業会 (Tel:03-3597-0470)

No.1050

インテリア ライフスタイル

会期：2005年6月8日(水)～10日(金) 10:00～18:00

会場：東京国際展示場(東京ビッグサイト)

主催：メサゴ・メッセフランクフルト(株)

後援：経済産業省、日本貿易振興機構、(財)対日貿易投資交流促進協会、日本繊維輸入組合等

出展社数：約海外26カ国を含め約340社

展示商品：ベッドリネン、テーブルリネン、キッチンリネン、カーペット、カーテン、寝具等

問い合わせ先：メサゴ・メッセフランクフルト(株) 担当:武田 (Tel:03-3262-8453)